



佐沼高等学校在仙同窓会便り

ひろがり

No16

左：夏の母校写真
撮影（銀河スタジオ）

発行日：2017. 7. 21
発行者：佐高在仙同窓会広報誌委員会

「伝統の伝承と絆の強化を」

佐沼高校在仙同窓会会長 高橋孝昌



盛夏の候、会員の皆様にはご健勝で過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、「光陰矢の如し」と言いますが、正に東日本大震災後、早七年目を迎えました。被災地では街づくり等の復興が進んでおりますが、残念ながら防災啓発に係わる震災の伝承活動が、日々、希薄になってきている現状に一抹の寂しさを感じ、この震災伝承等に微力ながらも頑張っていると思っている昨今です。

と同時に、当同窓会の運営に当たっても、この震災伝承と同様、母校の良き伝統を伝承し、同窓の絆を強めていくことに重点を指向していくことが必要との思いを強くしております。

と言うのも、会員の皆様には、嘗て、三年間、母校の学舎で伝統ある校風に包まれながら、学び・遊んで人生形成をされ現在があることに想いをいたし、その良き伝統を絶やさなため、会員同士でそれを再確認しつつ、後輩諸氏に伝承していくとともに、その機会を通じて会員の絆をより強めて行く場として当同窓会が存在し、かつ大きく機能して行かねばならないと思うからであります。

そのため、当同窓会は、平素から会員同志のネットワーク作りに尽力し、当会報

「ひろがり」の発行をはじめ、会員が一同に会する同窓会総会・懇親会等を開催して、良き伝統の伝承と同窓の絆強化に努めているところであります。

とりわけ、同窓の伝統伝承と絆の更なる強化を図る場として、同窓会総会を開催しておりますが、来る九月九日に、この同窓会総会開催を予定しておりますので、会員の皆様には、是非、総会に参加されて母校の伝統再確認とその伝承、さらには、同窓の絆をより強めていただくことを強く希望する次第であります。

結びに、会員の皆様のご健勝・ご多幸を御祈念申し上げます。

「佐高生の「おもてなし」を全国発信」

佐沼高校校長 小野寺清隆



在仙同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に様々な形でご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。今年は開校百十五年目の節目を迎えました。

南東北インターハイが長沼ボート場を会場に、八月二日から六日までの日程で開催されます。本校からは男女の舵手付きクオドルプル、女子ダブルスカルチームが県総体を勝ち抜き、出場権を獲得しまし

た。地元開催の利を生かして「佐沼高校」の名前を全国にとどろかせることを期待しています。さらに、本校生及び教職員、延べ三百名以上が運営スタッフとして本大会を支えます。六年前の東日本大震災では、全国の皆様から物心両面にわたる多大なご支援をいただきました。来場いただいた方々への最大限のおもてなしを通して、感謝の気持ちと宮城の元気な姿をお示したいと思います。

この他にも、県総体で陸上女子走り幅跳び優勝をはじめ、水泳男子二名五十m自由形、男子百m平泳ぎ・二百m平泳ぎで上位入賞し東北大会に出場します。また、文化部でも美術部と日本音楽(箏曲)が宮城県で開催される全国総合文化祭へ出場します。「文」では、東北大学一名を含む公立三十三名、私立四年生大学九十四名、短大十名、専門学校等五十三名、公務員十六名、民間九名合格という実績を残しました。

四月の始業式で、「まだ見ぬ新しい自分『未見の我』に出会う生活をしていこう」と話しました。様々な活動を通して、リーダーシップを発揮し社会に貢献できる骨太の人物を育成するため、教職員一丸となつて取り組んで参りますので、今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶といたします。

副会長登場

「卒業から半世紀」

在仙同窓会副会長（高十九回生）



銘名 満

早いもので佐沼高校を卒業してから半世紀が過ぎた。

図らずも現在、在仙同窓会の副会長を仰せつかつている。

高校時代は勉強に打ち込んだ記憶は殆ど無く、部活に青春をかけていた感じがする。

自分が同窓を意識したのは、社会人になつて間もなく体調を崩して入院生活を余儀なくされ落ち込んでいた時、会話も交わした事のない同窓である職場の大先輩が見舞いに来てくれて激励して貰ったことだ。其れがきっかけとなつて、元気を回復して職場復帰を果たすことが出来た。

その後、職場内に「県警プラタナス会」が結成され、最初の事務局を担当したこともあり、現在も連綿と継続されている

ことに郷土愛と絆の強さを感じている。また、一九回生をもじつて「一休会」と命名した、同級生ゴルフコンペを春・秋の年二回開催し、三十年近く続いている。最近では県内だけでなく、東京方面からの参加もあり、昔話に花を咲かせながら、旧交を温め、楽しみ中心で実施している。

同じ学び舎で青春時代を過ごした仲間には年齢を重ねるにつれ、懐かしさも増し、同窓生や母校の後輩たちの活躍等を見聞きする度に我がことのように胸を弾ませている。

卒業以来五十年、多くの分野、年代の

方々と接する事を生業としてきた自分にとつて、佐沼高校同窓生の皆さんは本当に心強い存在でした。

これからはその御恩に報いる為にも、会長を中心に仲間と協力して在仙同窓会発展のため、微力を尽くしていきたいと思ひます。

本部同窓会会長挨拶

「今こそ校訓、至誠」

佐沼高等学校同窓会会長（高二十回生）



氏名 良典

会員の皆様には、ご健勝で過ごしのこととお慶びを申し上げます。

私は、昨年度より高橋勝利大先輩から

バトンを受け、同窓会会長を拝命させて頂いております高二十回生の氏家です。会報誌発行にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

国の内外の環境が目まぐるしく変化する中で、我が母校の後輩達にはこの社会はどう映っているのでしょうか？

夢や希望を持つて、それを困難な状況を突破する時のエンジンにするくらい魅力的なものなのでしょうか？

生徒達の周りに先輩達の強力なネットワークがある、それが頑張れるモチベーションの一つになれば、これほど幸せなことはないと思うのです。こういう

う役割がこれからの時代の同窓会組織に期待される機能なのかもしれません。

さて、現代社会は、IT革命の次はAI、人工知能が社会を一変すると言われています。つまり、いよいよ人間が人間にしか発揮できない能力、それが本格的に求められる時代の到来です。

私は、それこそがネットワークであり、その根本にあるのは校訓の「至誠」だと思ひのです。どの時代でも不変的に重要であった「至誠」が一層際立つ社会の到来、そういう予感がします。

また、そういう社会では、IQよりNQ・EQが重要と言われております。つ



「献身・窮理・力行」の三徳を「至誠」をもって貫く

校訓

「文武両道」

校是

まり、ネットワークの力や心の知能指数が大切なのです。我々同窓会は、母校の発展のために今こそ連携力を発揮する時ではないでしょうか。

会員皆様様の一層のご協力、ご支援をお願い申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。

各界で活躍する在仙同窓生

「2019ラグビーワールドカップ日本

開催と宮城県ラグビー協会の取組み

宮城県ラグビーフットボール協会会長

(高二十回生) 千葉 貞男



2015年ラグビー
ワールドカップ・イギ
リス大会で、日本代
表が世界第四位の南

アフリカを土壇場で大逆転勝利したことは世界中のラグビーファンはもとより、スポーツを愛する人々を感動させたことは記憶に新しいと思います。

小生は高校時代ラグビーに明け暮れ、卒業後も国鉄・JR東日本仙台ラグビー部でプレーし、現役引退後、宮城県協会の理事を経験し、昨年宮城県ラグビー協会会長に就任し、宮城ラグビーの発展に寄与すべく努力しているところであります。

五十年間ラグビーを経験してきましたが、ずっと身体にしみついている言葉があります。それは高校時代に、恩師の高橋洋一郎先生から指導していただいた佐沼高校ラグビー部「部訓」三つの教えであります。1「礼節」、2「時間的観念」、3「整理整頓」です。この言葉は社会人として後輩を指導する立場になっている現在、大変役に立って

おり、将来に亘っても生き続ける言葉として感謝をしています。

さて、2019ラグビーワールドカップが日本で開催され、東北唯一釜石市で開催されることになりました。隣県の開催であり、宮城県ラグビー協会として全面的に支援していくことを約束しました。岩手県協会と釜石市長にも、お互い全力で盛り上げ成功できるように鉄壁のスクラムを組もうと、誓い合っているところであります。

また、更に宮城県ラグビー協会としての大きな取組として、2019ラグビーワールドカップ公認キャンプ地の招致であります。石巻市はいち早く招致に向けて手を挙げ、組織委員会に宮城県ラグビー協会と石巻市長の連盟で申請しております。今後宮城県ラグビー協会として、2019ラグビーワールドカップ日本開催成功に向けて、各種イベント、トップリーグ開催等計画して参りますので、多数の参加とご支援・ご協力を宜しくお願いします。

母・校・通・信

「東北・全国を舞台に活躍する佐高生」

佐沼高校同窓会事務局 熊谷 弘

在仙同窓会の皆様にはいつも母校を応援していただき有難うございます。

佐高生は、毎日七時間の授業を終えた

放課後、一生懸命部活動に励んでいます。

地区総体・県総体では、強豪校を相手に多くのファインプレーや熱戦が繰り広げられました。その結果、東北大会、インターハイ出場権を獲得した生徒がおりますのでご紹介いたします。また、文化部では、箏曲部・美術部が全国総合文化祭に参加いたしました。

○陸上競技部(東北大会出場、インターハイは東北大会の結果次第)

高橋瑞希 女子走り幅跳び 第一位
青田実央 女子三段跳び 第一位
青田実央 女子棒高跳び 第二位
笹原風生 男子棒高跳び 第四位

○水泳部

(東北大会出場)

渡邊蒼也 男子五十m自由形 第三位
武山直樹 男子百m平泳ぎ 第四位
男子二百m平泳ぎ 第六位

○ボート部

(東北大会、インターハイ出場)

阿部裕也・永浦響・佐藤樹・佐藤慧
佐藤太生

男子舵手付きクオドルプル 第一位

笠原里那・阿部夏美・大槻のりか・

菊地亜美・佐藤史織

女子舵手付きクオドルプル 第二位

富士原彩希・高橋未羽

女子ダブルスカル 第二位

○箏曲部(全国総文祭参加)

門田亜子 阿部桃子

○美術部(全国総文祭参加)

千葉理央



集まれ、 28回生！

第34回在仙同窓会総会
平成29年9月9日（土）開催

5月15日、今年の総会担当幹事の28回生4人が集まり、ミニ同期会を行いました。近況報告と高校時代の思い出を語り、今年の総会への参加を呼びかけて頂きました。

（敬称略）

自己紹介を兼ね、近況報告を！

（亀井敏朗）中学は佐沼、クラブはフエンシングをやっていました。親父が転勤族で、高校の卒業式の次の日、仙台に引っ越し、淋しい思いをしました。大学を卒業して、七十七銀行に就職、12カ店営業店を回りました。今は関連会社、第2の職場で働いています。平成25年と27年に子供達が結婚して、落ち着いたかな、と思っています。

（小野寺勇）

南方中出身です。高校卒業して七十七銀行に入り、平成24年に準定年、55歳で退職、その後関係会社の宮城商事にお世話になっています。塩釜に家を建て、長男も近くに家を建て、孫二人を時々面倒見るような生活をしています。実は震災で全壊してしまい、帰る機会がなくなり淋しい状況になっています。



鈴木和芳さん

（鈴木和芳）私は、最初はリクルートに入社しました。その後、コスモスの方で頑張っていました。いろいろなマズイなあとを思いまして、辞めました。その後、人生を考える為に、2年間山寺にいました。私の自叙伝を書くとしたら、タイトルは「乱れた履歴書」ですか。「自分はこれからどのように生きるべきか」と、悶々と考えながら、山寺立石寺の一番大きな檀家に住み込んで寺のお世話をしていました。その後出てから、皆がやっているような仕事では資本力に負けるから、やっけないような事をと、最終的には、茶道

具の販売を始めました。この関係で、「裂地」（茶碗等の道具を入れる袋）の模様の講演などを頼まれたりしています。自宅の前が尚綱学院大なので、単発的に、話しをしています。他とは違ったところで勝負しないとは絶対負けるので、着眼点を別個に持って、まだ生き残っているといった感じですね。

（千葉剛）登米町出身です。高校を出て、大学になかなか入れず、何とか北里大学を出て、今は獣医をしています。

最初は公務員を5年程やっていたのですが、同級生の家内が犬猫病院を始め、その後は、自分の病院から出ることもなく、世間と隔絶した生活をしていました。3年前から社会復帰をして行こうと、こういう所にも出さしていただいています。今は、病院を6か所程経営しています。好き放題やってしまった借りで、今は一生懸命、人事とかもやっております。まだしばらくは仕事をしようと思っています。

男女共学がスタート。上の学年とは違う環境ですね。そういった違和感のようなものはなかったですか？

（全員）全然なかったです。中学の延長です。

（亀井）校舎の西側が女子トイレ、東側が男子トイレで、

西側から行くのに遠かった。（千葉）3年上に姉がいて、男子と女子のクラスで交流会があるという話を聞いていた。僕らにはなかったもので、むしろ男女別の方が羨ましかった。



亀井敏朗さん

（亀井）私も年子の姉がいて、忘れ物届けに行く時とか、恐る恐る廊下から見ながら行くけど、女性だけというのは圧倒された。恥ずかしいやら怖いやらという感じ。

（千葉）入学して、あまりのカップルの多さ、ほんとにカップルが多かった。羨ましかった。そのまま結婚した人も多かった。「何々君と何々さん」とか。（*実名が飛び交う）

（鈴木）私はそんな事なかった。生徒会執行部をやつて、部活よりそっちの方が面白くて。遅くまでやっているのと、だんだん外が暗くなる。子供心に神秘性を感じて。暗くないと帰らない、明るいいうちは帰らない。執行部は絶対そうだった。朝は皆より30分早く行って、毎日、会議していました。

出来が悪くとも居心地がよかった！

（鈴木）入学式の時に対面式があった。男の1番と女の1番が挨拶をする、入試のね。（千葉）男子は県でトップと言われた。確か、2年から親の都合で二高に転校したけど、優秀なやつもいたけど、俺は佐沼がいいのは、出来が悪くても居心地が悪くない。すごく居心地のいい自由な高校だった。高校を出てからわかった。

思い出の先生は！

（鈴木）涙が出る程思い出に残る先生は、化学の青木先生。あの人は、大人の目と子供の目をあわせ持っている先生で、子供がわけわかんないで文句を言っても、しつかり受け止めてくれた。ああいった先生は、おそらくなかなかいない。（千葉）古文の島原先生がいた。出身が同じ登米というせいもある。授業の内容と本人がすごくマッチしていて、俺はすごく今でも授業の記憶が残っている。

（鈴木）今、漢文とか古文とか頼まれて読む機会がある。そうすると、もっと勉強しなきゃよかったなど。

（全員）先生は、好みが分かりますね！

学校行事の思い出は！

(小野寺) 応援練習だけは、ビビった。

(亀井) 竹刀もつて来るんだもん。15の子供にとつては、エエッ！なんなのこの先輩！

(鈴木) 午後まで校歌憶えておけよ！

(小野寺) 声、低いなんて。

(鈴木) 素晴らしい校歌だからって言われて・・・始めの「ひんがしに」は、他の高校にも良くあるようだけど。

(亀井) でも、校歌は好きだったなあ。

(千葉) 下駄通していた。4月ちよつと寒いんだよね。あれで高校生になったというイメージがあった。

(鈴木) この前、高校の前を通ったら、通学自転車とか、人がいないのにビックリした。親が、送ってくるようだ。



千葉 剛さん

(千葉) 昔は列になつて自転車で高校まで行ったね。横山あたりは、1年の時は自転車です、2年になりバイクで通っていた。

(亀井) 瀬峰から自転車とか、ザラにいた。

(千葉) 入学して4月、5月、途中で女の先輩に追い越されて、あれは男として辛かった。3年10キロの人と中学卒業したて、脚力の差があった。ちよつと恥ずかしかった。

〈佐高杯〉

(亀井) 「佐高杯」であつた。春の球技、夏の水泳、陸上。2クラスでチームを作つてやつた。



小野寺勇さん

(小野寺) 先輩達と同じ条件になるように。男女別れて、そうすると人数が合った。あれは楽しかった。チームワークも良くなって。

(鈴木) 三つの大会で「佐高杯」。我々が3年の時に2年生に取られた。

〈佐高祭〉

(鈴木) 確か、前の日に佐沼の街の中を仮装行列したね。

あゝ、あれは、文化祭の前の日だ！

(千葉) 文化祭の時に、校門に、「佐高祭」の看板を作つた。緑の杉葉を集めてきて、パイプにくつつけて。

同期の皆さんで、部活などで活躍した人は！

(鈴木) テニスが、インターハイに行きました。吉田君と千葉君だつて。

(小野寺) フェンシングは？

(亀井) 特に活躍はなかったけど、入学した51年の総体のフェンシング会場が佐沼だった。その頃、宮城学院とか聖和学園の3年の女子みんなが化粧していて、あれはびっくりした。とにかく綺麗だった。

(鈴木) 運動部ではないけど、作曲で、三迫さんが日本一になった。それから、夏休みの研究で千葉重信君が、総理大臣賞を貰つた。ご褒美としてアメリカ旅行。

(千葉) 確か、登米郡の蝶の分布図を作つた。

先程から、チャリ、チャリ修学旅行の話が出ていますか？

(全員) 修学旅行は、だいたい羽目を外した。

(亀井) 今の高校生よりは可

愛いものですよ？

(※具体的な話しが飛び交いましたが、事務局で割愛しました。同期の方は、御存じ)

(亀井) PTAとかで何回も会議があつて、確か、次の次の年から修学旅行が中止になった。

(千葉) 本当に修学旅行がなくなるとは思わなかった。手塚校長は約束守る男だったなあ。

(亀井) 後輩から恨まれた、恨まれた。

総会に向けて

(千葉) 話は戻るけど、当時付き合っていた連中は、ちよつと大人だったんだね。今気づいた。

(鈴木) やっぱり男も女も知らず知らずに意識はあつたんだ。

(千葉) なんか皆に会いたくなってきた。なんか、顔を思い出してきいた。

(亀井) 人、集めるか！総会終わつた後の還暦の集まりをメインにして。

(鈴木) 今から10年位前に、40人位で集まつた。その後、3回位やつたけど。最初は勢いあつたけど、年取つたら、一人ではね。今回は還暦。佐沼より、仙台の方が集まりやすいと言っている。この際だから、いろんな人に声をかけて、

還暦祝いを含めてやつたらどうですか。

(小野寺) 名簿は、前にいただいたのはあるので、それをもとに、クリーニングして出すしかないのかな。同期の熊谷君も事務局長しているし。

(亀井) 2年前、佐沼でやつた資料は？

(鈴木) あの時、70名位来た。その時は仙台からも行つた。名簿持っているから、うまく手分けして。あと、佐沼の人全員に来てもらおう。

(全員) とにかく、一人でも多く集めたいね。

〈事務局から〉お忙しいところ、又当日は強雨の中お集まりいただきありがとうございます。『男女共学』一期生として、併学の先輩としては羨ましい限りでしたが、「中学の延長です」、正にそれが自然なのですね。一人でも多い同期の皆さんの参加をお待ちしております。



28回生、待っています！

われら同期

十一回生「仙台よこの会」



<平成29年6月開催>

すると、まずは宮城県の陸上女子80mハードルの「永久不滅記録保持者」丸山（及川）一枝さん。高三で東北大会優勝。昭和三十九年の全日本では東京五輪代表の依田郁子選手らと走り、十一秒八の五位。勿論県新記録でした。しかし、五年後この種目が100mに変更されたため、最早誰も破れません。今も堂々のタイトルホルダーです。

Y氏は小学生だった息子がいじめにあった時、なんと加害者宅を直接訪問。結果、四人が親共々謝罪に来て、いじめも止んだとか。最近の仙台市のように学校も教育委員会も無責任な場合は、「こんな方法もやむを得ないのでは？」と思っ

てしまいます。在仙同窓会の高橋孝昌会長は県警刑事部長として地元組トップに上り詰め、たし、大学でも柔道部長だった佐々木伸君（故人）は起業した東日本広告社を地元二位まで育てました。さらにフカヒレの新製品開発に没頭した橋上晃己君なども、有能な仲間です。

それにしても卒業時、百五十三人居た男子は四十一人（26%）が亡くなりま

した。対する女性軍は百二十一人中、七人（6%）だけです。男にとつては、平均寿命よりさらに厳しい現実が待っているようですね。（元仙台放送 佐藤正弥）

十八回生「古希を祝う会」

昨年十月十八日地元ホテルに団塊世代のトップを走る十八回生百十七名が集い、「古希を祝う会」を開催。また、

十二月二十五日には、有志が母校を訪問し、会費から捻出した3m程の山桜を植樹させていただいた。以下は女性代表の感想文です。是非ご一読を！

（十八回生有志）



五十数年前、青春時代を共に過ごした皆様と、こうしてお会いでき、本当にうれしく、心躍る一

日でした。お互いいつの間にか歳を重ねました。共に学び、部活し、周りの社会を動かし、時代を担ってきた事が夢のようです。母校訪問では、あの場所に、当時の面影が断片的に残っていました。さらに、スライドショーに心の風景が呼び起され、いつもは忘れていた一コマ一コマがよみがえりました。そして、ニューグランドディアでは、会場いっぱい笑顔に「古希を祝う会」を、皆様が十分楽しんでいただけたと思います。これからしばらくは、この興奮でより前向きに生きる力となることでしょう。

それから数日後、十八回卒業生と、母校の絆の証として、正面通りに桜の木

の植樹をしました。毎年四月中旬、満開の山桜が、きつと後輩を楽しませてくれることでしょう。

豊洲市場の問題、長沼ボート場の事や米大統領選挙と、時事にも関心をもち、次は、今回欠席の友も誘って参加できるように、心身の健康に気をつけたいものです。

この日のために、企画運営を担当し、会を盛り上げてくださった皆様、思い出に残る一日となりましたことに心より感謝申し上げます。



（母校に植樹した18回生有志）

同級生の皆様、どうかいつまでも若々しく、ますますご活躍くださるようお祈りいたします。（十八回生 大立目宏子）

第三十三回在仙同窓会総会開催

第三十三回佐沼高等学校在仙同窓会総会は、二十七回生が当番幹事を務め、平成二十八年九月三日（土）午後四時から、青葉区の「パレス宮城野」において最近では最高の百十三名が出席し開催されました。

総会には、来賓として母校の小野寺校長、布施前登米市長、本部同窓会氏会長、本部同窓会熊谷事務局長の出席を頂きました。議事進行は高橋孝昌在仙同窓会会長の挨拶から始まり、議案についても原案の通り承認されるなどスムーズに終了しました。

また記念講演では、二十七回生の伊豆沼農産（登米市新田所在）代表取締役社長伊藤秀雄氏による「農村を産業化する伊豆沼農産の挑戦」と題する講演が行われました。

今回の総会には、登米市内からも本部同窓会氏会長と同期の二十回生、並びに当番幹事である二十七回生の同窓生も多数参加していただいたこともあり、引き続き開催された懇親会はこれまでにない盛り上がりとなりました。

（当番幹事二十七回生 佐藤 則夫）



**盛り上がった
昨年の総会風景
今年は9月9日
開催決定！**



笑顔で万歳三唱



在仙同窓会ゴルフ愛好会活動報告

春と秋の年2回開催しているゴルフコンペは、回を重ね、今年6月のコンペで二十回となりました。毎回先輩や同期、後輩の同窓生が世代を超えて集い、親睦を深める絶好の機会となっています。

第二十回春のコンペは、今年六月十一日、素晴らしい好天気に恵まれた松島国際カントリークラブで開催しました。

優勝は岡本智悦氏（三十回生）、準優勝は佐々木節雄氏（十八回生）、ベスグロも岡本智悦氏（三十回生）。岡本さんはグロス78、ネット62.7という好スコアでラウンド、上位7人までがアンダーパーを記録するハイレベルな争いとなりました。

また、昨年十月二十三日泉国際ゴルフ倶楽部で開催した第十九回秋のコンペは、氏家洋治氏（二十回生）が優勝し、準優勝は羽生正弘氏（十八回生）、ベスグロは鮫名満氏（十九回生）でした。

今年秋に開催する第二十一回コンペには、多数の参加をお待ちしています。

◆第二十回コンペ H29.6.11

（松島国際CC）参加十七名
優勝 岡本 智悦 （三十回生）
準優勝 佐々木節雄 （十八回生）
第三位 千葉 寛 （三十回生）
ベスグロ 岡本 智悦 （三十回生）

◆第十九回コンペ H28.10.23

（泉国際ゴルフ倶楽部）参加十四名
優勝 氏家洋治 （二十回生）
準優勝 羽生正弘 （十八回生）
第三位 高橋正義 （二十回生）
ベスグロ 鮫名 満 （十九回生）

※敬称略



写真 第二十回コンペ（スタート前）

松島国際カントリークラブ

◆総会開催のお知らせ◆

第三十四回佐沼高校在仙同窓会の総会・懇親会は平成二十九年九月九日（土）午後四時より、青葉区上杉パレス宮城野において開催されます。

※総会開催のご案内をお送りしておりますので、「返信ハガキ」を必ず投函してください。返信ハガキの戻りにより、会員皆様の住所等の維持管理が図られます。ご協力をお願いします。

◆情報をお待ちしています◆

お知らせの同窓生の活動や、活躍している情報（同期会、趣味、サークル、イベント、著作等の活動等）がありましたら、ぜひ事務局へご連絡をお願いします。

在仙同窓会事務局／㈱ホットハウス内
（担当・岡本） ☎（215）7787

◆編集後記

交流の「きっかけ」、そして「ひろがり」につながる広報誌を目指しております。いかがでしょうか。また、今回から、「母校通信」のコーナーを設け、在校生の活躍も紹介していきます。多くの皆さんに登場していただくよう、「われら同期」など、同期会の模様や活躍など、投稿お待ちしております。

編集委員長（二十五回生） 佐藤新光



ホットハウス

「住み替えて始まる素敵生活」
不動産のことならホットハウスへ！

代表取締役 日下 敦（高第30回生）

仙台市青葉区本町1丁目5-31
☎022（215）7787

株式会社大成ハウジング

代表取締役 佐々木 良泰
（高第31回生）

仙台市若林区六丁目字左近堀十五
☎022（二八七）三三二六

「地域の患者さん、リウマチ患者さんのために」

ゆうファミリークリニック

院長 高橋 裕一
（高第30回生）

宮城県宮城郡利府町字新館二一五
☎022（七六六）四一四一

㈱ウイル動物病院グループ

仙台動物医療センター、若林救急動物病院
ウイル動物病院 鶴ヶ谷・塩釜・角田・亘理

代表取締役 千葉 剛

仙台市若林区荒井字福在家30
☎022（三五五）八四九二



おかげさまで三十九周年

日専連カードは
これからも地域とともに



㈱日専連ライフサービス

仙台市青葉区中央一・三・一
☎022（二六七）九二二一